



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

11月号—No.354

2024.10.25

(毎月1回25日発行)

【次縹(つぐはなだ)】藍で染めた淡い青色。

藍(タデ科の一年生植物)の葉を乾燥・発酵させた染料(スクモ)で染めた青色のひとつ。平安時代中期に編纂された50巻にも及ぶ法典「延喜式」には位によって定められた服の色を統一するための細かな色マニュアルがあり、「縹」はそこで用いられた色名。染料の量まで定められており、濃いものから順に深縹・中縹・次縹・浅縹・白縹の5段階がある。

●目次／contents

今月のニュース..... 2

令和6年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」スタート
2025・2026年度おんかつ登録アーティスト集合研修

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボセッション参加者募集／令和7・8年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集／令和7年度「地域創造セミナー事業」実施団体募集／令和6・7年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」アウトリーチ研修実施

今月の情報..... 7

地域通信／アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

熊本市 第66回熊本県芸術文化祭オープニングステージ「ひこばえ」

●公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)

今年度のおんかつがスタート/2025・2026年度おんかつ登録アーティストの集合研修を開催

令和6年度 公共ホール 音楽活性化事業 (おんかつ)

●令和6年度公共ホール音楽活性化事業実施団体 (主会場/アーティスト/日程)

- 兵庫県 福崎町(福崎町エルデホール/西村悟/10月2日～5日)
- 長野県 飯山市(飯山市文化交流館 なちゅら/Modétro Saxophone Ensemble/11月6日～8日)
- 徳島県 勝浦町(勝浦町農村環境改善センター/西村悟/11月7日～10日)
- 熊本県 宇土市(宇土市民会館/閑喜弦介/11月14日～16日)
- 鳥根県 安来市(安来市総合文化ホール アルテピア/Modétro Saxophone Ensemble/11月21日～23日)
- 福島県 西郷村(西郷村文化センター/今田篤/11月28日～30日)
- 滋賀県 長浜市(木之本スティックホール/Modétro Saxophone Ensemble/11月28日～30日)
- 高知県 香南市(香南市夜須公民館/閑喜弦介/12月5日～7日)
- 熊本県 荒尾市(荒尾市総合文化センター/Modétro Saxophone Ensemble/1月30日～2月1日)
- 静岡県 袋井市(袋井市月見の里学遊館/カメハ/2月6日～8日)

●公共ホール音楽活性化事業に関する 問い合わせ

芸術環境部 日野
Tel. 03-5573-4076
onkatsu@jafra.or.jp



西村悟さんによるアクティビティとコンサート

●令和6年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」がスタート

クラシック音楽にふれる機会の少ない方や地域の方々にとって新たな発見や交流の場になることを目指し、工夫を凝らしたコンサートとアクティビティ(地域交流プログラム)を実施する「おんかつ」。令和6年度は、全国10の地域に赴き、音楽を届けます。今号では、その中から福崎町の模様をご紹介します。

福崎町は兵庫県の南西側に位置し、古くから交通の要衝として栄えた自然豊かなまちです。今回は、テノール歌手の西村悟さんと共に、多様な層を対象に4つのアクティビティ(幼児園、福祉施設、中学校コーラス部、女声合唱団)を実施しました。

福崎西・東中学校コーラス部のアクティビティでは、オペラ『魔笛』のアリア『おいらは鳥刺し』を歌いながら登場。迫力ある歌声に最初は驚いた様子の生徒たちでしたが、オペラ『リゴレット』のアリア『女心の歌』で西村さんがマントヴァ公爵を演じると、女好きの役どころに笑いが起こりました。教科書でお馴染みの『魔王』では、CDとは違った生の歌声に真剣な表情で聴き入っていました。終盤では、戦争で亡くなった若い兵士に想いを込めて作詞された『鴉』を紹介。生徒たちにとってその強いメッセージが平和について深く考えるきっかけとなったようです。最後に披露したオペラ『トゥーランドット』のアリア『誰も寝てはならぬ』は、西村さんの夢を叶えてくれた曲。夢をもつことの大切さが響いたようで、輝きに満ち

た様子でした。

最終日のコンサートは、「歌のレストラン～エルデ～」というコンセプトで、西村さんがレストランの支配人に扮してプログラムを進めます。歌のフルコースは、オードブルの『音楽に寄す』から始まりました。2部の最初には、福崎町の女声合唱団「ポーコ・ア・ポコ」との共演もあってにぎやかなステージに。最後は『誰も寝てはならぬ』という豪華なメインディッシュで締めくくり、満席の会場は歓喜の渦に包まれました。

福崎町の皆様からは、また「来てほしい」との声もあがり、充実したおんかつとなりました。

今年度のおんかつ事業はまだまだ続きますので、ぜひご注目ください。

●2025・2026年度おんかつ登録アーティスト 集合研修

地域創造では1998(平成10)年度からオーディションで選考した登録アーティスト(2カ年)をコーディネーターと共に地域に派遣する「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」を実施しています。決定したばかりの2025・2026(令和7・8)年度登録アーティスト5名とおんかつコーディネーターが初めて顔合わせする集合研修が9月17日、18日に行われました。集合研修の目的は、おんかつについての認識を共有することと、アクティビティのプログラムをグループディスカッションで考えることです。

今回は、登録アーティストたちが事業実施前にどのような準備を行っているのかわかる研修の模様をご紹介します。

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

◎演劇のコミュニケーションゲームにも挑戦

まず行われたのが、おんかつコーディネーターで地域創造のリージョナルシアター事業の派遣アーティストでもある演出家の多田淳之介さんによるワークショップです。

最初に、参加するアーティストとコーディネーターが、自分の紹介とこのワークショップのためにつけた自分のあだ名の説明をしたあと、輪になって一人がランダムにあだ名を呼び、呼ばれた人がまたランダムに次の人のあだ名を呼ぶといった緊張をほぐすためのコミュニケーションゲームに始まり、室内を歩き回りながら、暑いときや寒いときの歩き方、楽しいことがあったときの歩き方など、内面を歩き方で表現するなど、歩き方だけでもたくさんの表現があることを体験してもらいました。

最後に2グループに分かれ、「何かが困っている」をお題として、一つのチームが「何かが」「なんで」困っているかを即興で演じ、もう一つのチームはそれを見て当てるというワークを行い、演劇のワークショップの魅力を堪能できる内容となりました。

◎先輩の実体験から学ぶ

ワークショップ、おんかつについての講義に続き、おんかつ支援登録アーティストの北島佳奈さん(2012・13(平成24・25)年度おんかつ登録アーティスト/ヴァイオリン)、塚越慎子さん(2016・17(平成28・29)年度おんかつ登録アーティスト/マリンバ)を招き、アーティストとして伝えたいことやそれぞれのアクティビティ先での対象者に合わせたプログラムづくりにつ

いてなど、先輩の実体験から学ぶゼミが行われました。

アーティストとしての揺るぎない軸をもちながら、それぞれ地域を知り、地域の方々と向き合ってきた先輩たちの一言一言に、おんかつの精神が溢れていました。

◎アクティビティのプログラムづくり

今回の集合研修の集大成として、実地研修に向けて小学校高学年(4～6年生)を対象にした45分間のアクティビティのプログラムを考えるグループディスカッションを行いました。5名の登録アーティストが2つのグループに分かれ、各グループの担当になったコーディネーターと意見交換しながらプログラムづくりを行いました。

1日目は、アクティビティでのメインとしてとらえる1曲とその曲で伝えたいこと、どのように体感してもらうかを考え、2日目は、実際にアクティビティのプログラムを企画するディスカッションが行われ、最後に全員が発表し、それぞれの企画についてコーディネーターがコメントして集合研修が終了となりました。

今回のプログラムをもとに、担当コーディネーターとの打ち合わせを経て、小学校でのアクティビティを行う実地研修が予定されています。来年4月の全体研修会では登録アーティスト5名による公開でのプレゼンテーションも行われますので、ぜひご参加ください。



左:多田淳之介さんによる演劇ワークショップ/右:おんかつ支援登録アーティストの北島佳奈さん、塚越慎子さんを交えてのディスカッション

●2025・2026年度公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)

登録アーティスト

- 三原未紗子(みはら みさこ)[ピアノ]
- 鈴木舞(すずき まい)[ヴァイオリン]
- 北垣彩(きたがき あや)[チェロ]
- 山崎由貴(やまざき ゆき)[ユーフォニアム]
- 小野寺光(おのでら ひかる)[バスバリトン]

財団からのお知らせ

●ステージラボセッション参加申し込み方法

当財団ホームページから募集要領・申込書類をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。
<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html#boshu>
申し込み先: kensyu@jafra.or.jp

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部 児島・天野
Tel. 03-5573-4183

◎フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)

フェニーチェ堺は、2019年10月1日にグランドオープンしました。「フェニーチェ」は、イタリア語で不死鳥を意味しています。堺市は、大坂夏の陣、第二次世界大戦などによって焦土と化しましたが、その都度、不死鳥のように蘇ってきました。フェニックスは、堺の悠久の歴史の中で常に前を向いて歩んできた先人の想い、そしてそれを受け継ぐ我々の決意を象徴的に表す言葉です。

堺は茶の湯を大成した千利休を輩出した地としても有名で、古くから自由・自治都市また国際貿易港としても大いに栄えました。現在もその精神は市民に受け継がれ文化活動も活発で、オペラ団体やアマチュアオーケをはじめ、バレエ、演劇、邦楽、俳句など、多種多様な団体が活動しています。フェニーチェ堺は南大阪の拠点施設として、市民文化活動の活性化を図ると同時に、日本有数の舞台機構と2,000席ある大ホールを使って、国内外の多彩な公演を提供し続けるといった文化芸術創造の「両翼を担う」場所を目指しています。

指定管理者: フェニーチェ堺共同事業体

●ステージラボセッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等の体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。

令和6年度の後期セッションは、フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)にて3コースを開催します。各コースの詳細は募集要領をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

募集締切: 2024年11月25日(月) 必着

◎ステージラボセッション概要

[日程] 2025年2月4日(火)～7日(金)
※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ2月4日(火)～6日(木)
[会場] フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)
(堺市堺区翁橋町2-1-1)
[開講コース] ホール入門コース、自主事業コース、公立ホール・劇場マネージャーコース
[定員] 各コース20名程度
[主催] 一般財団法人地域創造
[共催] (公財)堺市文化振興財団(フェニーチェ堺)、堺市

◎ホール入門コース

【コーディネーター】

小倉由佳子(ロームシアター京都 事業課長、プログラム・ディレクター)

【対象となる職員の目安】

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において業務経験年数1年半未満の方。

【コース概要】

社会の変化に伴い、地域課題の複雑さ／複合性が増すことにより、公共ホール・劇場への期待は高まっています。そのような状況のなかで、改めてベーシックなところから、その役割や可能性について、参加者で一緒に考えます。ゲストでお招きするさまざまな現場での実践者(スタッフやアーティスト)のお話をその手

がかりとしていきます。

◎自主事業コース

【コーディネーター】

柿塚拓真(公益財団法人九州交響楽団 音楽主幹補佐兼事業部長)

【対象となる職員の目安】

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

【コース概要】

劇場、音楽堂や芸術団体による所謂“社会包摂”事業が随分と増えてきました。それらの活動は社会的価値を目的としたものですが、果たしてその価値は本当にあるのでしょうか。一方で実践者はそれらの活動を芸術活動として“面白い”と思っているのでしょうか。劇場が社会に対しておごることなく、おもねることもなく芸術をするために公共ホール職員は何をすべきか。そのための頭の中の基礎体力をつけるコースにしたいと思います。

◎公立ホール・劇場マネージャーコース

【コーディネーター】

若林朋子(プロジェクト・コーディネーター/立教大学大学院社会デザイン研究科 特任教授)

【対象となる職員の目安】

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において管理職程度の職責をもつ方。

【コース概要】

多様性や包摂的な視点が重視される昨今、公共ホールや劇場は「やるべきこと」「期待されること」が増え続けています。経営においても、労働環境の改善やハラスメント防止など、細やかな対応は欠かせません。そこで今回は、「対話とコミュニケーション」をテーマに、ホール・劇場の対外・対内マネジメントの土台を作る、深いレベルでの対話のあり方と関係性の構築について考えます。

●令和7・8年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集

実践的な公立美術館運営能力の向上と、公立美術館の相互交流を図ることを目的とした研修事業です。美術館や地域の課題意識に沿って研修テーマを設定し、地域創造の負担で講師を美術館へ派遣します。都道府県単位または、都道府県内外のまとまった地域の複

数の美術館でご参加をいただくため、美術館同士のネットワークの場としてもご活用いただけます。

本事業を令和7・8年度の2年間にわたって地域創造と共催で行う公立美術館を募集します。ご応募をお待ちしております。

募集締切:2025年1月31日(金)必着

●対象となる公立美術館等

次の①の公立美術館(博物館その他の美術作品の公開及び保管を行う施設をいう。以下「公立美術館」という。))が、②のいずれかの形態で参加することを要件とする。

- ①A 地方公共団体が設置し、以下の団体が管理運営する公立美術館
 - A 地方公共団体
 - イ 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- B 地方独立行政法人が設置し、管理運営する公立美術館
- ②参加する美術館の形態
 - A 都道府県単位の複数の公立美術館
 - B 都道府県内外のまとまった地域の複数の公立美術館

●対象となる職員

公立美術館の学芸員、一般事務職員、当該公立美術館を設置する地方公共団体の行政部局の職員等

●申請者

- 都道府県単位の公立美術館の研修事業の場合は、当該都道府県立美術館
- 都道府県内外のまとまった地域における研修事業の場合は、地域の中核的な公立美術館

●事業内容(原則)

【開催地】

原則として、申請をする公立美術館(以下、「申請美術館」)

【参加者数】

研修内容に則した参加者数を設定する。原則として20名以上の参加者により行う。

【開催回数・開催時間等】

令和7・8年度の2年間について、内容の異なる半日の研修事業を、申請美術館の希望する日程において、複数回行う。

(例:有識者による講義、事例紹介、グループディスカッション、実践的なワークショップ等)
申請書類等を参考に、公立美術館の課題意識に沿って、申請美術館と地域創造が共同してオーダーメイド型で策定する。

●申請美術館としての業務

各研修のテーマ設定、参加者募集にかかる事務、参加者名簿の作成、司会や受付などの人員確保を含む会場の設営、配布資料の印刷などの業務(なお、参加職員の旅費は派遣した公立美術館が負担)

●参考:近年開催した研修テーマ

- ミュージアム等オリジナルグッズのオンデマンド制作(ワークショップ)
- 美術館と観光・インバウンド/文化観光拠点化ウォークイン型(予約なし)体験プログラム(ワークショップ)
- 地域に根ざす文化施設の活動について(文化施設と他の行政分野との連携)
- アフターコロナの集客方法/集客できるチャシ、SNSの活用法
- コレクションの活用法/ミュージアムグッズの可能性
- SNSを活用したデジタルマーケティング戦略
- 生成AI時代の美術著作権
- 他分野の専門家から見たデジタル時代の美術館について

●美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ

◎申請方法

当財団ホームページより申請書をダウンロードし、郵送でお申し込みください。
<https://www.jafra.or.jp/project/visual-art/05.html>

◎問い合わせ

総務部 桑山・高野
Tel. 03-5573-4054

財団からのお知らせ

●令和7年度「地域創造セミナー事業」 実施団体募集

都道府県が主催する地方公共団体職員および公立文化施設職員等を対象とした研修会に対し、地域創造が講師派遣費用を負担する「地域創造セミナー事業」の令和7年度実施団体の募集を開始します。

本事業が対象としている研修会は、文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりを内容とするもののほか、都道府県下における芸術文化団体の相互連携や、芸術文化団体と他の領域の団体のネットワーク構築など広域的な連携強化を目的とする内容等としています。講演会のテーマや内容は、申請する都道府県の課題や今後取り組みたい施策などを基に決定します。研修会は、講師による講演のほか、テーマや要望に応じてワークショップを実施することが可能です。

地域課題の文化・芸術の視点での検討や、地方公共団体をはじめ多様な主体の連携による広域的な文化・芸術を活用した新たな施策等の検討など、これからの地域と文化・芸術を考える上で有益な情報を有識者や先駆者から得ることのできる絶好の機会となりますので、ぜひご活用ください。

募集締切：2024年11月29日(金) 必着



令和6年度セミナーの様子(愛知県/講師：杉崎栄介氏)

●令和6・7年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」アウトリーチ研修を実施

県および市町村等の公共ホールが共同・連携して、2カ年にわたってクラシック音楽、現代ダンスまたは演劇の複数ジャンルを取り入れた地域交流プログラムと作品制作および公演を実施する「公共ホール創造ネットワークモデル事業」。令和6・7年度の実施団体となる福島県では、会津若松市、南相馬市、三春町の3市町が参加し事業を実施しています。リージョナルシアター事業の派遣アーティストである多田淳之介さん、公共ホール現代ダンス活性化支援事業の登録アーティストである森下真樹さんの2名のアーティストを選出し、今年度は地域交流プログラムとして、参加3市町で小学校や福祉施設でのアウトリーチを実施します。

9月に福島県男女共生センターにて実施したアウトリーチ研修では、アーティストと共に県と市町の担当者が話し合いながら、新たなアウトリーチのプログラムをつくり上げました。担当者にとって、アーティストがどのように考えてプログラムを組み立てているのかを感じ取ることができる良い機会となりました。また、地元アーティストの育成も目標に掲げ、3名の地元アーティストにもプログラムづくりに参加してもらい、プログラムづくりにおいて大切なことなどの気づきを得られました。今回参加した地元アーティストは、各市町でのアウトリーチ実施時のアシスタントとして参加します。さらに、研修の一環として、福島県内および

周辺地域の文化行政担当者、ホール職員やアーティストを対象とした講座を4日間開催しました。

9月25日には、二本松市立二本松南小学校の5年生2クラスで、新たなアウトリーチプログラムを実施し、翌日にはプログラム内容を振り返り修正を加え、プログラムづくりは終了しました。

10月末からは各市町でのアウトリーチがスタートします。その様子は改めてレター等でお知らせする予定です。



上：多田淳之介さん、森下真樹さんのプログラムづくりの様子
下：二本松市立二本松南小学校でのアウトリーチの様子

●地域創造セミナーの実施要項・申請書は、当財団ホームページからダウンロードできます。郵送でお申し込みください。

●問い合わせ
芸術環境部 今野
Tel. 03-5573-4066

●創造ネットワークモデル事業に関する問い合わせ
芸術環境部 栗林・溝上
Tel. 03-5573-4055・4075

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 和田・今野

●2025年1月号情報締切
11月18日(月)

●2025年1月号掲載対象情報
2025年1月～4月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●北海道函館市

北海道立函館美術館
〒040-0001 函館市五稜郭町37-6
Tel. 0138-56-6311 高橋伸佳
<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/hbj/>

文字の芸術をめぐる旅 文字ってアートなの？

約2,000点の函館美術館コレクションの核となる「文字・記号に関わる美術」「書と東洋美術」の作品を中心に紹介する。意味をもつ文字や言葉は、文字どおりの意味に加えて、アートとして表現されることによってさらに意味が付け加えられることもある。本展示では、多様な文字を使った作品の意味を探りながら、その魅力に迫る。
[日程]12月21日～2025年4月6日
[会場]北海道立函館美術館

●青森県八戸市

八戸市美術館
〒031-0031 八戸市大字番町10-4
Tel. 0178-45-8338 高橋麻衣
<https://hachinohe-art-museum.jp/>

風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画

1950～90年代にかけて全県で広がりをみせた青森の教育版画運動。八戸市では美術教諭だった坂本小九郎が中学校で熱心に指導し、うち1点は宮崎駿監督の映画『魔女の宅急便』の劇中画のモデルにもなっている。本展では坂本が指導した初期作品から、集大成となる「虹の上をとぶ船」シリーズまで一堂



八戸市立湊中学校養護学級生徒《星空をペガサスと牛が飛んでいく》[虹の上をとぶ船総集編Ⅱ] (1976/八戸市美術館蔵)

に展示するほか、坂本と教育版画の出会いの“種”となった版画教育に携わった郷土の版画家や県内の教育版画を紹介する。
[日程]10月12日～2025年1月13日
[会場]八戸市美術館

関東

●茨城県牛久市

うしく現代美術展実行委員会
〒300-1211 牛久市柏田町1606-1
Tel. 029-871-2301 宮田・平川
<https://ushiku-genbi.org>

第29回 うしく現代美術展

牛久市にゆかりの作家を中心に、作家と市民、行政が連携して開催する地域に根ざした美術展。29回目となる今年のテーマは「NO ART NO PEACE !」。57名の作家が平面と立体の各ジャンルで作品を発表する。会期中は、出品作家が講師となり水彩のさまざまな技法を使って擬態動物を描く小・中学生対象のワークショップも行われ、完成した作品が会場に展示される。
[日程]11月17日～12月1日
[会場]牛久市中央生涯学習センター



2023年の鑑賞会の様子

●栃木県小山市

小山市立車屋美術館
〒329-0214 小山市乙女3-10-34
Tel. 0285-41-0968 中尾英恵
<https://www.city.oyama.tochigi.jp/kurumayamuseum/>

市制70周年記念 第61回企画展 「できごとども 五月女哲平、五月女政巳、五月女政平」

小山市に暮らしてきた三代の画家の作品を一度に鑑賞できる展

覧会。おおよそ30歳ずつ離れ、経歴も作風も異なるそれぞれの傑作を楽しめるほか、哲平の新作や、政巳が近年情熱を注いでいるスケッチ、政平の初期の作品なども公開する。政巳と哲平が講師を務める風景画ワークショップも開催。
[日程]9月28日～12月8日
[会場]小山市立車屋美術館

●埼玉県川越市

川越市立美術館
〒350-0053 川越市郭町2-30-1
Tel. 049-228-8080 折井貴恵
<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/artmuseum/>

江戸のお洒落装身具(アイテム) 袋物、髪飾り、そして江戸風俗の世界

小江戸・川越ならではの、江戸時代のお洒落事情をテーマにした特別展。着物の帯に挟んだり懐に入れたりして収納する「袋物」や、結髪を飾る櫛やかんざしなど、お洒落グッズとして使用されていた実用品の数々を紹介する。江戸風俗研究家・平野英夫氏こだわりの其角堂コレクションから約250点の逸品を一堂に展示。
[日程]10月26日～12月8日
[会場]川越市立美術館

●埼玉県草加市

(公財)草加市文化協会
〒340-0013 草加市松江1-1-5
Tel. 048-931-9326 手塚雪香
<https://soka-bunka.jp/>

国際ハープフェスティバル2024 ー草加市

1989年より続く国内最大級のハープの祭典。今年は、特別ゲストにはいだしょうこを迎えた歌とハープの共演や、シンガポールのハープキッズアンサンブル“レイヴ・ハーパーズ”によるハープミュージカルなどを楽しむことができる。また、普段見ることので

きないハーブによるアンサンブルの演奏のほか、関連企画の国際ハーブコンクールは世界でも有数のハーブコンクールとなっている。
[日程] 11月16日、17日
[会場] 草加市文化会館

●千葉県船橋市

船橋市民文化創造館
〒273-0005 船橋市本町1-3-1
フェイスビル6F
Tel. 047-423-7261 鳥居柚加
<https://www.city.funabashi.lg.jp/shi-setsu/bunka/0001/0002/0001/p011078.html>

総合舞台芸術創造プロジェクト2024「アンデルセン立体的朗読劇～旅立ちと冒険のものがたり～」

市と姉妹都市提携を結ぶデンマーク王国・オーデンセ市の出身であるアンデルセンの童話を題材とした朗読劇。2015年に開始した「アンデルセンプロジェクト」の後継事業で、姉妹都市提携35周年となる今回の演目は旅と冒険をテーマにした3作品。10～70歳代の公募市民キャストが、舞台上を縦横無尽に動きつつ演じる立体的な朗読劇にチャレンジする。一人が複数の役を担当し、アンデルセンの世界を舞台上につくり上げる。
[日程] 11月16日、17日
[会場] 船橋市民文化創造館(きららホール)

●千葉県習志野市

習志野市文化スポーツ振興財団
〒275-0026 習志野市谷津1-16-1
Tel. 047-479-1212 深野有里
<http://narabun.jp/>

休日の音楽鑑賞教室♪ in 袖ヶ浦体育館

習志野文化ホールの休館中、市民の文化体験を途切れさせないために提供する企画。普段は学校等で音楽鑑賞教室を開催し

ている千葉交響楽団が体育館へ出張し、多くの人が楽しめるコンサートを開催。同楽団は小中高や特別支援学校への訪問演奏など音楽教育にも力を入れており、「おらがまちのオーケストラ」として親しまれている。

[日程] 11月9日
[会場] 習志野市袖ヶ浦体育館

●東京都目黒区

目黒区美術館
〒153-0063 目黒区目黒2-4-36
Tel. 03-3714-1201 重田正恵
<https://mmat.jp/>

障がいのあるアーティストによる作品展 日々のよろこび2024

パリパラリンピックの開催にちなみ、東京大会が開催された2021年に引き続き開催される展示会。目黒区内の障がい者施設を中心に、障がいのあるアーティストが制作した作品を展示する。会期中は、来場者がガラス窓に「キットパス」という画材で自由に絵を描くことができる企画も実施する。

[日程] 10月26日～11月17日
[会場] 目黒区美術館

●川崎市

川崎市文化財団
〒212-8557 川崎市幸区大宮町1310
Tel. 044-272-7366 保坂星羅
<https://www.kbz.or.jp/>

Colors かわさき 2024展

市が掲げる「かわさきパラムーブメント」に基づき、障がいの有無にかかわらず親しめる芸術文化活動の一環として開催される展覧会。事前に希望する施設へ絵画講師を派遣して作品制作を支援するほか、公募(施設・団体・個人)による約140作品の絵画や市立特別支援学校3校の子どもたちの作品を展示。アートとテクノロジーをテーマとしたワークショップなども開催される。

[日程] 11月22日～12月1日
[会場] ミューザ川崎シンフォニーホール

●神奈川県湯河原町

町立湯河原美術館
〒259-0314 足柄下郡湯河原町宮上623-1
Tel. 0465-63-7788 豊田童子
<https://www.town.yugawara.kanagawa.jp/site/museum/>

高良眞木 まなざしの奥に

自らの眼と信念をもってこの世界を見つめ、自然と人々と社会との共生を目指して生きた画家・高良眞木(1930～2011)。平塚市美術館の特別協力により、同館所蔵の主要な高良作品を軸に、初公開となるスケッチや挿絵原画、下絵など合わせて約120点を紹介。子ども向けに鑑賞をサポートするガイドシートも用意されている。

[日程] 9月27日～12月16日(会期中一部展示替え有り)
[会場] 町立湯河原美術館

北陸・中部

●新潟県長岡市

長岡市芸術文化振興財団
〒940-2108
長岡市千秋3-1356-6
Tel. 0258-29-7715 殖栗寿史
<https://www.nagaoka-caf.or.jp/lyric/>

気軽にオペラ! 豪華にオペラ!! 傑作オペラの名曲をあなたに…

敷居が高くなりがちなオペラを身近に感じられるコンサート。ナビゲーターはフリーアナウンサーの朝岡聡。新潟県出身の鈴木愛美(ソプラノ)、高橋維(ソプラノ)、笛田博昭(テノール)、品田広希(バリトン)といったオペラ歌手陣と新国立劇場合唱団、長岡少年少女合唱団による歌唱で、名作オペラを親しみやすく紹介する。

[日程] 11月10日
[会場] 長岡リリックホール

●富山県氷見市

氷見市文化振興財団
〒935-0021 氷見市幸町31-9
Tel. 0766-30-3430 谷内香絵子
<https://www.himi-bunka.or.jp/>

氷見小中高生オリジナル音楽劇『イヤサー! ～舞いつなげ、氷見のこえ～』

子どもたちでつくり上げる氷見を題材にしたオリジナル音楽劇。2022年の開館を機に、子どもたちの文化芸術へ興味関心をもつきっかけや居場所づくりなどを目的に企画され、昨年8月に初めての公演を開催。今年は新メンバーを迎えたほか、地元の表泉青年団が獅子舞を演じ、氷見高校の生徒が衣裳を制作するなど、幅広い世代が参加する。

[日程] 11月24日
[会場] 氷見市芸術文化館



2023年の公演の様子

●石川県金沢市

石川県立音楽堂
〒920-0856 金沢市昭和町20-1
Tel. 076-232-3403 宮本泰
<https://ongakudo.jp/>

能登半島復興支援 大槻文蔵 チャリティ能

音楽堂とも縁の深い観世流の人間国宝・大槻文蔵の発願により、能登半島地震の復興支援として開催される能公演。収益は全額、文化による復興支援活動に充てられる。演目は、世阿弥の娘婿・金春禪竹の傑作『杜若(かきつばた)』。今回は観世流の古来秘伝とされた特別な演出(小書)「素囃子(しらばやし)」により上演される。

[日程] 11月27日
[会場] 石川県立音楽堂

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●長野県松本市

まつもと市民芸術館
〒390-0815 松本市深志3-10-1
Tel. 0263-33-3800 島村楓
<https://www.mpac.jp/>

ひらく古典のトビラ 其の3 「声と音でめぐる古典文学の世界」

芸術監督の木ノ下裕一による古典企画。今回は、古典文学の原文と現代語訳を交えた朗読を、琵琶の生演奏とともにお届けする。朗読は元NHKアナウンサーの加賀美幸子と俳優の成河、演奏は琵琶奏者の塩高和之。第一部は『万葉集』『更級日記』などから厳選した珠玉の名節を紹介。第二部では『平家物語』を取り上げる。木ノ下のユニークな解説も見どころの一つ。

[日程] 11月2日
[会場] まつもと市民芸術館

●岐阜県岐阜市

岐阜県美術館
〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22
Tel. 058-271-1313 鳥羽・由良
<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/>

アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.16 札本彩子

美術館の中にアーティストのアトリエが出現し、制作活動を身近に鑑賞・体験する企画。16回目の今回は、食品をテーマに制作を行う札本彩子が公開制作。食品サンプルの街として有名な郡上のある岐阜県での制作にあたり、当地の名産であるハムに着目。アトリエに擬似ハム工場をつくり、美術館でまるでハムを生産し、加工しているような情景を表現する。

[日程] 10月11日～11月24日
[会場] 岐阜県美術館

●愛知県新城市

新城文化会館
〒441-1381 新城市下川1-1
Tel. 0536-23-2122 安形貴代江
<https://www.shinshiro-bunka.jp/>

第35回 新城歌舞伎

新城市の無形民俗文化財に登録されている新城歌舞伎の公演。新城市文化会館の開館を機に始まり、今年で35回目を迎える。長篠・設楽原の戦いを舞台に、新城歌舞伎用に書き下ろされた地元の無名武士を主人公とした作品のほか、地元の子どもたちによる「子ども歌舞伎」も上演される。公演が地元市民の交流の場となることで、貴重な伝統文化を保存し、未来への継承に繋がっていく。

[日程] 11月17日
[会場] 新城文化会館

近畿

●三重県津市

三重県文化会館
〒514-0061 津市一身田上津部田1234
Tel. 059-233-1112 濱口展香
<https://www.center-mie.or.jp/>

三重音楽発信 vol.11 制作オペラ『カルメン』

会館の最大規模の企画制作型事業である「三重音楽発信」第11弾として、開館30周年を記念し10年ぶりにオペラを制作。会館と関わりの深い矢崎彦太郎(指揮者)を芸術監督・指揮に、三重を拠点に活動する鳴海康平(演出家・「第七劇場」主宰)を演出に迎え、両名にゆかりのあるフランスにちなみ『カルメン』を、県内文化団体および関係者の力を集結して上演する。

[日程] 11月17日
[会場] 三重県総合文化センター 三重県文化会館

●滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
〒520-0806 大津市打出浜15-1
Tel. 077-523-7150 井上大
<https://www.biwako-hall.or.jp/>

アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～ vol.16

一般公募で選ばれたバラエティに富んだ出演者たちが集い、音楽愛好家の“憧れの場”であるびわ湖ホール小ホールの舞台でアンサンブルを奏でる。公演の最後には、北口大輔チェロカルテットによる、プロの演奏家によるアンサンブルも楽しむことができる。司会は地元高校の音楽科教諭が務め、世代を超えた9組の出演者によるアットホームなコンサートを贈る。

[日程] 11月3日
[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●京都府八幡市

八幡市立松花堂庭園・美術館
〒614-8077 八幡市八幡女郎花43-1
Tel. 075-981-0010 川畑薫
<https://shokado-garden-art-museum.jp/>

仙人ワンダーランドへようこそ!

中国、日本の伝統的な画題として絵画に描かれた多様な仙人の作品を中心に紹介する展覧会。古くから人々の憧れの対象だった仙人について、超人的な存在でありながら、親しみを感じさせる視点で描いた作品を紹介することにより、そのとらえ方の面白さについて紹介する。

[日程] 10月12日～11月24日
[会場] 八幡市立松花堂美術館

●大阪府和泉市

和泉市久保惣記念美術館
〒594-1156 和泉市内田町3-6-12
Tel. 0725-54-0001 橋詰文之
<https://www.ikm-art.jp/>

遊びのすがたー工芸と絵画で見る玩具の美術ー

江戸時代を中心とした近代以前の遊びの文化に親しんでもらいながら工芸や絵画の魅力に迫る展覧会。盤双六やかるた、羽子板、嵯峨人形などの工芸品と、

遊びに興じる様子を描いた屏風や浮世絵など約90点を紹介。ただの遊び道具でありながら、当時の技術の巧みさにふれるとともに、伝統的な遊びの歴史の深さを感じることができる。

[日程] 9月15日～11月17日
[会場] 和泉市久保惣記念美術館

●兵庫県宝塚市

宝塚市文化財団
〒665-0845 宝塚市栄町2-1-1
Tel. 0797-85-8844 三戸俊徳
<https://takarazuka-c.jp/>

『きつね森の山男』～人形劇と浪曲によるあらたな創作～

川崎市アートセンター、青森県三戸町と連携し、三戸町出身の作家・馬場のぼるの絵本『きつね森の山男』を題材に、幼児から大人まで楽しめる舞台作品を制作。脚色・演出にふじたあさやを迎え、「新しくて、おもしろい!」をテーマに、大阪の老舗「人形劇団クラレテ」と浪曲の異色のコラボレーションで、子どもから大人まで楽しめる作品に仕上げている。

[日程] 11月23日
[会場] 宝塚ソリオホール

●奈良県天理市

なら歴史芸術文化村
〒632-0032 天理市柚之内町437-3
Tel. 0743-86-4420 池口充展
<https://www3.pref.nara.jp/bunkamura/>

「だれもがみんなアーティスト! 事業」ワークショップ“オリジナル影絵芝居づくり”(後期)

なら歴史芸術文化村は道の駅としても登録されており、訪れた人が歴史やアートを気軽に体験等できる取り組みを展開している。取り組みの一つとして、年齢や障害の有無に関わらず、アートの楽しみを発見することや自己表現ができる機会を創出するワークショップを開催。前期で

は周辺の自然や歴史を題材にした影絵人形を創作し、後期ではオリジナルストーリーを考え、最終日に発表公演を行う。

[日程]11月9日、30日、12月8日
[会場]なら歴史芸術文化村

中国・四国

●島根県浜田市



いわみ芸術劇場

〒698-0022 益田市有明町5-15
Tel. 0856-31-1860 新田直子
<https://www.grandtoit.jp/>

「山粧ふ 里にこだます音楽会」

県西部に生活拠点が点在していることから、劇場からまちに飛び出して文化芸術を届ける事業。今回は、里山風景の美しい浜田市金城町(美又地区)のシンボリック的存在である築87年の多目的施設を会場に、箏と尺八の演奏会を開催。古典のほか浜田市出身の島村抱月が作詞した『カチューシャの唄』など多彩なプログラムを披露する。地産地消のマルシェも同時開催。

[日程]11月4日
[会場]美又共存同楽ハウス(旧美又信用購買販売組合)



美又共存同楽ハウス

●岡山市

岡山県立美術館

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48

Tel. 086-225-4800 洪性孝
<https://okayama-kenbi.info/>

藤原和通 そこにある音

倉敷市出身のアーティスト・藤原和通(1944～2020)の、「音」に対

する作品やプロダクトにフォーカスした展覧会。藤原はさまざまな仕事を手がけながらもその中心には常に音の存在があった。彼が記録してきた音やその活動について、写真や資料を紹介することで彼が伝えようとした音の魅力に迫る。また、藤原が実際に世界で収集してきた音を聞いたり触ったりできる体験型の展示も実施している。

[日程]9月21日～11月10日
[会場]岡山県立美術館

●愛媛県久万高原町

町立久万美術館

〒791-1205 上浮穴郡久万高原町菅生2番耕地1442-7
Tel. 0892-21-2881 品川ちひろ

<https://www.kumakogen.jp/site/muse/>

久万美の原点—洲之内徹

2024年3月の開館35周年を記念した企画展。根幹を成すコレクション作品とゆかりの深い美術評論家・洲之内徹が世に出そうとした作家を取り上げ、洲之内の美術に対する姿勢を、彼の遺した言葉とともに紹介する。洲之内の精神が現代にどのように受け継がれているか、また今後受け継がれていくのかについても展望する機会となっている。

[日程]9月14日～12月8日
[会場]町立久万美術館

九州・沖縄

●北九州市



北九州市芸術文化振興財団
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1-1-11

Tel. 093-562-2620 森下・岡田
<https://q-geki.jp/>

市民参加でつくるコンテンポラリーダンス作品『シワノヴァ』

地域のアーティストと2年間タッグを組み、「地域とつながる」「まちや人と舞台芸術の力を共に分かち合う」「舞台芸術の熱を伝え

る」の3つをキーワードに、市民参加作品を創作する「キタゲキローカルアーティスト協働プログラム(LAP)」。

第1弾はダンスカンパニー「太めパフォーマンス」(乗松薫・鉄田えみ)が10人の市民ダンサーと共に、市内のさまざまな祭りのリサーチやワークショップを経てオリジナル作品を創作する。

[日程]11月2日、3日
[会場]J:COM北九州芸術劇場



『シワノヴァ』稽古風景

●長崎県佐世保市

アルカスSASEBO

〒857-0863 佐世保市三浦町2-3

Tel. 0956-42-1111 山元麻美
<https://www.arkas.or.jp/>

第13回させば文化マンス

「アルキヤスサセボ」

2012年に「させば文化ウィーク」として始まった芸術文化交流プログラム。今回はながさきピース文化祭2025のプレイベントとして、「100」をキーワードにみんなで作る作品やステージを展開。大編成のジャズバンドや書道パフォーマンスなどに大勢の市民が参加するほか、昨年アルカスを拠点に立ち上げた市民団体「Hug & Come(はぐくむ)たい!」の企画による盆踊りとトークフォークダンスを掛け合わせた「SASEBONダンス」などを開催する。

[日程]11月2日、3日
[会場]アルカスSASEBO

●宮崎県延岡市

(公財)宮崎県立芸術劇場

〒880-8557 宮崎市船塚3-210
Tel. 0985-28-3208 露木拓真
<https://miyazaki-ac.jp/>

おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part22 クラシック編

0歳児から音楽に楽しくふれることができる「おんがくのおもちゃ箱シリーズ」。22回目の今回は、片岡祐介(マリンバ、打楽器、ピアノ)と鈴木潤(ピアノ、鍵盤ハーモニカ)が、来場者とやり取りしながら、子どもたちの泣き声さえも音楽として進行する即興的な演奏会。色々な楽器を組み合わせた演奏で、馴染みある曲も新鮮に感じられるステージとなっている。

[日程]11月30日
[会場]野口遵記念館

●鹿児島県霧島市

みやまコンセル

〒899-6603 霧島市牧園町高千穂3311-29

Tel. 0995-78-8000 荒木・桑木野
<https://miyama-conseru.or.jp/>

霧島芸術の森を巡る旅(バスツアー&コンサート)

霧島地域の豊かな大自然の中で音楽を楽しめるホールに県内から広く足を運んでもらおうと企画。現在85名が登録するみやまコンセル協力演奏家の中から、今年は濱田貴志(クラシックギター)のプロデュースで、オリジナルな演奏と踊りが楽しめるコンサートを開催。鹿児島中央駅から出発するバスツアーでは10月にリニューアルした上野原縄文の森も楽しめる。

[日程]11月24日
[会場]霧島国際音楽ホール

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp

●岩手県軽米町

かるまい文化交流センター 宇漢米(うかめ)館

〒028-6302 九戸郡軽米町大字軽米第8地割87-1

Tel. 0195-26-8250

<https://www.town.karumai.iwate.jp/article/ukamekan/>

◎2023年12月1日オープン



老朽化により建て替えが必要となった中央公民館と町立図書館を集約し、子育て支援、多目的ホールなどの機能を備えた多世代型多目的交流施設として整備。

建物は自然エネルギー設備を導入したほか、耐震・防火性能にも優れる。多目的ホールは舞台照明や音響反射板を備え、電動式・手動式合わせて400席の観覧席は収納が可能となり多様な公演に対応。また収蔵可能数が町立図書館の1.5倍になった図書館、親子で利用可能な子育て広場、気軽に利用できるトレーニング・フィットネスルームなどを備えるほか、町の中心部を運行するすべてのバスがセンターを経由するなど、交通利便性も高めている。

周辺環境への影響も配慮しながら中心街のにぎわい創出と地域活性化のため、町を代表するシンボル施設として活用が期待されている。

〔施設概要〕多目的ホール(400席)、スタジオリハーサル室、会議室、子育て支援センター、キッチンスタジオ、図書館、フィットネス・トレーニングルーム ほか

〔設置・管理・運営者〕軽米町

〔設計者〕(株)武田菱設計

●埼玉県ふじみ野市

ふじみ野ステラ・ウェスト

〒356-0058 ふじみ野市大井中央2-1-8

Tel. 049-261-0648

<https://f-bunka.jp/stella-west/>

◎2023年11月4日オープン



公民館や図書館の老朽化に伴い、文化施設と図書館が一体となった複合施設として旧大井中央公民館跡地に整備。名称の「ステラ(stella)」は、ラテン語およびイタリア語で「星」の意味で、夜空にある無数の星のように多くの人が集い、賑わい、学び、育み、市民一人ひとりが輝く星になってほしいという願いが込められており、2021年4月にオープンした「ふじみ野ステラ・イースト」と対になっている。

市内初となる800席を超える多目的ホールをはじめ、ダンス・音楽スタジオ、ギャラリー、カフェなどを有し、1階から4階までのフロアの一部が図書館となっている。図書館エリアに隣接するホワイエは、ホール利用がない時は自由に行き来が可能で、図書館と一体的に利用できる。またギャラリーやカフェはホールと図書館の導線に設置され、誰でも気軽に立ち寄れる空間となっている。

〔施設概要〕多目的ホール(806席)、ギャラリー、ダンス・音楽スタジオ3室、図書館、カフェ ほか

〔設置者〕ふじみ野市

〔管理者〕ふじみ野未来創造パートナーズ(株)

〔運営者〕日本環境マネジメント(株)

〔設計者〕三井住友・近藤・久米設計特定建設工事共同企業体

●大阪府茨木市

茨木市文化・子育て複合施設 おにクル

〒567-0888 茨木市駅前3-9-45

Tel. 072-631-0296

<https://www.onikuru.jp/>

◎2023年11月26日オープン



©ナカサアンドパートナーズ

老朽化などにより閉館した茨木市市民会館の跡地と、隣接する福祉文化会館や中央公園を含むエリアを「市民会館跡地エリア」と位置づけ、市民と共にまちの未来を見据えた活用方法を検討し、建設された複合施設。名称の「おにクル」は、市内に住む6歳の男の子が命名。鬼のキャラクター「いばらき童子」を見て、「怖い鬼さんも楽しそうで来なくなっちゃうところ」という意味を込めた。

市民と一緒に考え、つくり上げていく「育てる広場」をキーコンセプトに、ホールや図書館、こども支援センター、屋内こども広場、市民活動センター、プラネタリウムなど、多くの機能を有する。7階建ての各フロアが吹き抜けの「縦の道」で繋がり、各フロアの音や雰囲気が伝わり溶け合うことで「日々何かが起こり、誰かと出会う」場となっている。

〔オープニング事業〕つぎのイロドリ(開館記念コンサートほか)

〔施設概要〕大ホール(1,201席)、多目的ホール、図書館、プラネタリウム、こども支援センター、屋内こども広場、市民活動センター、多目的室 ほか

〔設置者〕茨木市

〔管理・運営者〕おにクルみらい

〔設計者〕竹中工務店・伊東豊雄建築設計事務所共同企業体

▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

熊本市

第66回熊本県芸術文化祭 オープニングステージ 「ひこばえ」



上：演奏風景／下：宇土市太鼓収蔵館

●宇土の雨乞い太鼓

江戸時代、現在の熊本県宇土市周辺地域の集落では、直径1メートルを超えるケヤキをくり抜いた大太鼓を叩いて雨乞いや虫追いなどの祈願を行った。田植え後の祝いや豊年祭りに神社の境内などで叩く長胴太鼓は、両縁を33個の十四面体「木星(きぼし)」で飾り、台車に載せたり、太い棒にくくりつけて担いだり、数十人がかりで移動させた。

集落が力を合わせて大太鼓と鉦や笛で踊る行事は、都市への人口流出や生活様式の変化に押され、戦後の高度経済成長期を境に衰退。多くの太鼓が放置された。しかし、椿原(つばはら)地区の太鼓が73年に張り替えられ、20年ぶりに地元の八幡宮に奉納されると、復活の機運が生まれた。89年からふるさと創生事業によって調査と補修が行われ、26基を復元。2017年には雨乞い太鼓29基と関連資料28件が国の重要有形民俗文化財に指定された。現在、雨乞い太鼓は、宇土市大太鼓収蔵館で保管、展示されている。

●第66回熊本県芸術文化祭オープニング ステージ「ひこばえ」

【会期】2024年9月8日

【会場】熊本県立劇場 演劇ホール

【主催】熊本県芸術文化祭実行委員会

*文化協会が中心となった熊本県芸術祭と県が主催する熊本県民文化祭を2005年度に「芸術を高め、文化を広め、次世代へつなぐ」芸術文化祭として統合。

熊本県芸術文化祭(芸文祭)の開幕を飾るオープニングステージで太鼓芸能集団・鼓童と地元の大太鼓が共演する「ひこばえ」が9月8日に熊本県立劇場(県劇)で披露された。芸文祭は1959年に文化協会が中心となってスタートした熊本県芸術祭と県が主催する熊本県民文化祭を2005年に統合したものだ^(*)。オープニングステージは県劇がプロデュースしており、民謡やジャズなどさまざまなジャンルにスポットを当て、プロと県民が共演する創作舞台を発表。今回は熊本県菊池市出身で地元の大太鼓の保存会から鼓童に進んだ前田順康さんを演出に迎え、国際的に活躍する作曲家・藤倉大さんの委嘱曲を含めて上演した。

出演したのは鼓童の9名に加え、オーディション等で選ばれた地元の大太鼓打ち22名。国の重要有形民俗文化財に指定された宇土の雨乞い大太鼓に着目した第1部では大太鼓の演奏に加え、石井眞木作曲の『モノクローム』をプロと地元メンバーで共演。第2部は藤倉作曲『Pulsing〜パーカッショングループのための』と前田作曲『ひこばえ』の世界初演だった。

プロデュースを行う県劇の佐藤奈々絵事業グループ長は、「芸文祭は『芸術を高め、文化を広め、次世代へつなぐ』がコンセプトで、創作舞台では市民参加を基本にしてきた。地元の人が世界に繋がる機会をつくるところに県劇が関わる意味がある」と言い、ネットワークを駆使し、鼓童や地元の関係者と協働したという。

1月にオーディションを行い、以来、オンラインなどさまざまな方法で練習を重ねた。何度も熊本を訪れた前田さんは、「雨乞い大太鼓のコピーではなく、精神性、太鼓がもつプリミティブな面白さを伝える現代版にしたい」と考え、衣装も和太鼓の定番を破るなど工夫した。藤倉さんの曲は演奏時間も楽器や演奏者数の指定もなく、時々の変化で楽しめるものになっていた。今回身に付けた技術があれば、鼓童がいなくても再現できる曲だ。

こうしたステージを可能にした「太鼓王国熊本」の礎になったのが雨乞い大太鼓の復活だ。

宇土雨乞い大太鼓保存会前会長の中村進さんは、その復活運動の第一歩から関わった。

1980年代、地域活性化運動が全国に広がり、熊本県でも細川護熙知事が「日本づくり運動」を唱えた。どんなものでもいいから日本一をつくろうという運動の中で宇土市が掘り起こしたのが大太鼓だった。雨乞いの行事は廃れ、多くの太鼓は廃棄物扱い。早急に修復し、打ち手の養成もしようと市に働きかけた。折からの和太鼓ブームも追い風となり、ふるさと創生事業で交付された1億円を使って修復し、宇土市大太鼓収蔵館を建てた。90年には保存会、92年には後継者育成を目的にした青年部を結成。翌年には県劇の鈴木健二館長の発案で大太鼓26基と踊り手100人による創作曲『新伝承・宇土太鼓26』が上演された。今年で39回を数える宇土大太鼓フェスティバルは、今や市の恒例行事となっており、宇土天響太鼓や太鼓芸能集団 紬衣、宇土高校和太鼓部「鼓」といった若手の保存会団体が運営の中心を担う。

長年市役所の担当者として太鼓に向き合ってきた元松茂樹市長は、「宇土市民の太鼓に対する親近感が高い。雨乞い大太鼓の行事には勇壮な太鼓ばかりでなく、パチを赤ん坊に見立ててあやす静かな踊りもあり、そうした踊りや笛を残そうと婦人会が子どもたちに教えている。少子高齢化の中、一筋縄ではいかないが何とか次の世代に繋げていければ」と話す。

宇土市の子どもたちは保育園から太鼓を打つ。宇土市民会館では小中学校への太鼓アウトリーチを実施し、マネージャーの高田大介さんが指導する。高田さんは鼓童文化財団研修所で研修後、宇土に戻り、保存会の一員として紬衣を立ち上げた。「ひこばえ」の企画も中核になって担った。若い世代は創作に取り組み、復興を進めてきた世代は伝承に向き合っている。

宇土雨乞い大太鼓は甦った時から、既存の民俗芸能の復元・伝承とは異なる道を歩んだ。その過程は変化の激しい時代に、民俗芸能を継承するひとつの道を示している。9月8日の公演は雨乞い大太鼓の切り株から出た新たな飛躍の芽だ。(ジャーナリスト・奈良部和美)